

平成27年版『日本美術年鑑』 刊行事業・出版事業『美術研究』(シ07)

日本美術年鑑

2015

東京文化財研究所

『日本美術年鑑』

日本美術年鑑は、我が国の各年の美術活動と美術研究・批評の状況を記録した刊行物である。文化財情報資料部では当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が1936(昭和11)年から始めた『日本美術年鑑』の編集を引き継ぎ、刊行を継続してきた。平成27年版は、B5判、516ページとなった。なお、出版に際しては、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。

『美術研究』

1932(昭和7)年1月、当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所の2代所長・矢代幸雄の提唱により第1号を刊行。以来、80年以上にわたり、日本・東洋の古美術ならびに日本の近代・現代美術とこれらに関する西洋美術についての論文、研究ノート、書評、展覧会評、図版解説・研究資料等を掲載している。本年度は419号、420号、421号を刊行した。なお、出版に際しては、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。

美術研究

無形文化遺産部

2-(4)-②-1)

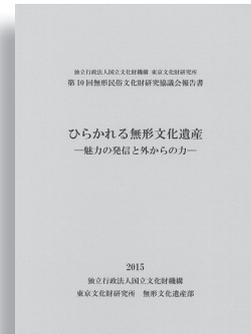
無形文化遺産部出版関係事業(△04)

『無形文化遺産研究報告』

無形文化財や無形民俗文化財、文化財保存技術に関する研究論文、調査報告、資料紹介等を掲載している。

『無形民俗文化財研究協議会報告書』

無形文化遺産部では毎年テーマを定め、保存会関係者・行政担当者・研究者などが一堂に会して無形の民俗文化財の保護と継承について研究協議する会を開催している。第11回にあたる本年度は、「無形文化遺産と防災一リスクマネジメントと復興サポート」をテーマとして開催し、その報告・総合討議の内容などをまとめて報告書として刊行した。



保存科学研究センター

2-(4)-②-1)

『保存科学』56号の出版(ホ07)

『保存科学』56号

岡田健、稲葉政満(東京藝術大学大学院美術研究科教授)、佐野千絵、中山俊介、早川泰弘の5名からなる編集委員会を編成、投稿された17件全ての原稿に対して、査読委員による査読を実施、報文2件、報告14件、計16件の掲載を決定した。

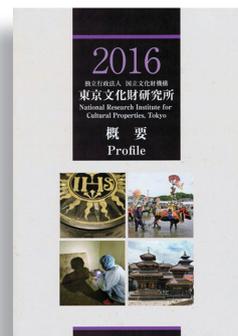


『東京文化財研究所概要』、『TOBUNKENNEWS』

『東京文化財研究所概要』は研究所の組織や活動内容を、写真を多用して日英2ヶ国語により簡潔に紹介している。2016(平成28)年度の概要はA4判37ページ。

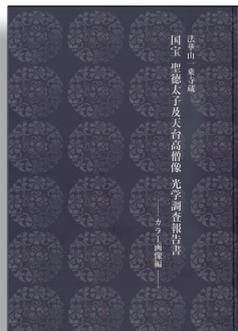


『TOBUNKENNEWS』はウェブサイトに公開した毎月の「活動報告」から、紙媒体に適した記事を精選し、2頁のコラム、刊行物紹介等とともに掲載している。A4判。2016(平成28)年度はNo.61(7月刊、44ページ)、62(11月刊、36ページ)、63(29年3月刊、40ページ)を刊行した。



『東京文化財研究所概要』、『TOBUNKENNEWS』はそれぞれ、各部・センターからの部会員で構成される東京文化財研究所広報委員会の概要部会、ニュース部会が作成し、編集事務はいずれも研究支援推進部企画渉外係が担当している。

プロジェクトの一環として刊行された刊行物



『法華山一乗寺蔵 国宝聖徳太子及天台高僧像光学調査報告書』

本書は、兵庫・一乗寺蔵聖徳太子及天台高僧像に関して奈良国立博物館との共同研究の成果を公開するものである。構成は2分冊とし、『光学調査報告書—カラー画像編』においては、全10幅の細部の描写を捉えたカラー画像を紹介した。2016年4月刊行、179ページ。『光学調査報告書』は、カラー画像に加え、蛍光画像、近赤外線画像、X線透過画像に加え、従来読み取りが困難であった賛文などを記した色紙形や短冊形の近赤外線画像をおさめ、多角的に本作品を捉えるものである。2017年3月刊行、167ページ。

(①シ02の一環として実施)



『公開研究会予稿集 南蛮漆器の多源性を探る』

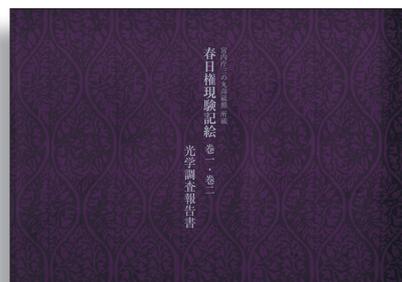
2017(平成29)年3月4日・5日に開催した公開研究会「南蛮漆器の多源性を探る」の予稿集として発行した。本研究会の開催趣旨、プログラム、12本の発表要旨および関連地図を所載する。日本語を基本としているが、一部は英訳も掲載。本文は白黒印刷。2017年3月刊行、33ページ。

(①シ04の一環として実施)

『宮内庁三の丸尚蔵館所蔵 春日権現験記絵 巻一・巻二 光学調査報告書』

本書は、東京文化財研究所が宮内庁三の丸尚蔵館と共同で2003(平成15)年から実施してきた、鎌倉時代を代表する絵巻物の大作「春日権現験記絵」の修理前の光学調査の成果報告書で、同作品全20巻のうち、巻一・巻二を対象としている。2017年3月刊行、151ページ(縦組み)・XRF103ページ(横組み)。

(④シ05の一環として実施)





『琉球絵画 光学調査報告書』

沖縄県内に所在する琉球絵画11作品に関する光学調査の結果をまとめた報告書である。琉球絵画とは、琉球王朝時代に琉球の地で描かれた絵画のことを指すが、その多くは第二次世界大戦の戦禍によって消失し、十分な研究が行われることなく現在に至っている。本書では、高精細カラー画像を多数掲載するとともに、蛍光X線分析による彩色材料調査の結果をあわせて収録した。

2017年3月刊行、255ページ。

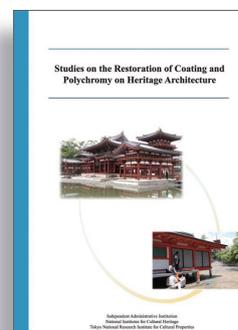
(②ホ03の一環として実施)

Studies on the Restoration of Coating and Polychromy on Heritage Architecture

本書は、2009年から2015年までに遂行された「文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究」プロジェクトの中で開催された5回の研究会内容を抜粋し英訳したものである。建造物の彩色修理について様々な分野の専門家からの知見を紹介している。

2017年3月刊行、227ページ。

(②ホ05の一環として実施)



『未来につなぐ人類の技 16』

—近代の文化遺産の保存理念と修復理念—

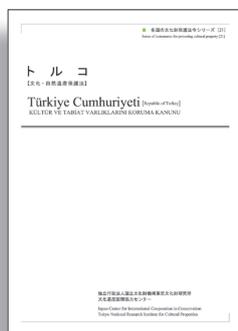
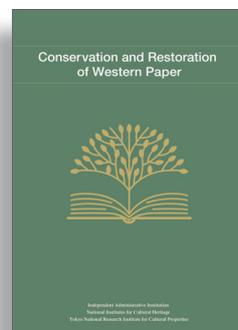
本書は、2016(平成28)年1月に東京文化財研究所で開催した『近代の文化遺産の保存修復に関する研究会』における、ドイツの産業遺産専門家、日本の産業考古学会、文化財建造物修理、近代史の専門家による講演内容を取りまとめたものである。近代の文化遺産(特に建造物)と、従来の文化遺産の保存と修復に関する考え方の相違点等を、具体的事例をもとに抽出、分析し、今後の保存対策について考察を行っている。2017年3月刊行、58ページ。

(②ホ06の一環として実施)

Conservation and Restoration of Modern Paper

本書は、日本・カナダ・メキシコにおけるアーカイブ担当者または修復技術者の講演内容を取りまとめた「未来につなぐ人類の技 15—洋紙の保存と修復」(2015(平成27)年3月刊行)の英訳版である。酸性紙の保存と修復、没食子インクを使った文書の保存と修復などに関する話題を中心として、国内外の具体的な事例をもとに、考察を行っている。2017年3月刊行、86ページ。

(②ホ06の一環として実施)



『各国の文化財保護法令シリーズ [21] トルコ』

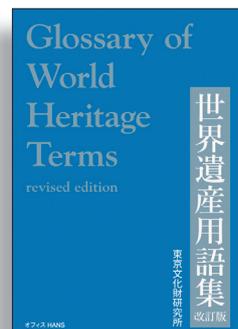
本冊子は、トルコの文化遺産保護に関する法令「文化・自然遺産保護法」を、原文のトルコ語から和訳したものである。巻末に原文もあわせて掲載している。日本語・トルコ語、2017年3月刊行、113ページ。

(④コ01の一環として実施)

『世界遺産用語集(改訂版)』

世界遺産の推薦や保全状況報告の際に重要となる80項目の用語について、英語とその和訳、定義をまとめた用語集。2015年度の刊行物を増補改訂し市販本として作成した。2012~2016年の世界遺産委員会などでの議論や関連事項についての解説も付している。2017年3月刊行、A5判、150ページ、オフィスHANS 定価1500円+税。

(④コ01の一環として実施)





『アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成28年度成果報告書』

平成28年度にアジア諸国等文化遺産保存修復協力として、カンボジア、ミャンマー、アルメニア、イラン、ネパールほか各国を対象に実施した諸事業の内容と事業成果、関連資料・報告等を収録。

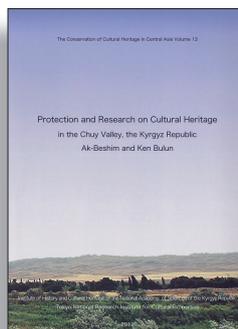
日本語、2017年3月刊行、144ページ。

(③コ02の一環として実施)

Safeguarding of Cultural Heritage in Myanmar

平成25～27年度に文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業として実施した、「ミャンマーにおける文化遺産保護に関する拠点交流事業」報告書(平成28年3月に日本語版を刊行)のうち、建造物分野と美術工芸(壁画・漆)分野に関する内容を英訳・再構成したもの。英語、2017年3月刊行、137ページ。

(③コ02の一環として実施)



Protection and Research on Cultural Heritage in the Chuy Valley, the Kyrgyz Republic –Ak Beshim and Ken Bulun

平成28年度に刊行した日本語版の報告書、『キルギス共和国チュウ川流域の文化遺産の保護と研究 アク・ベシム遺跡、ケン・ブルン遺跡ー2011～2014年度ー』を英訳したもの。両遺跡における考古学的調査の成果や、漢文史料に基づくアク・ベシム遺跡に関する歴史学的考察等を収録。

英語、2017年3月刊行、125ページ。

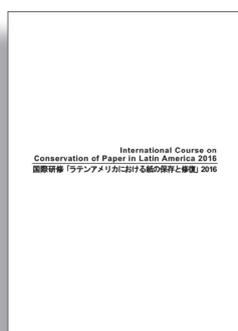
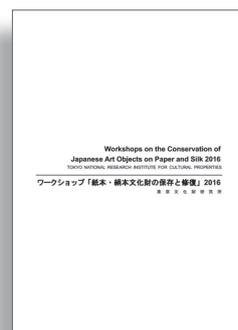
(③コ02の一環として実施)

『Workshops on the Conservation of Japanese Art Objects on Paper and Silk 2016 / ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」2016』

2016年7月6日から15日にかけてドイツ技術博物館の協力のもとベルリン国立博物館アジア美術館(ドイツ)を会場に開催したワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」における講義及び実習の実施内容を掲載した。

日本語・英語、2017年3月刊行、103ページ。

(③コ05の一環として実施)



『International Course on Conservation of Paper in Latin America 2016 / 国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」2016』

2016年11月9日から25日にかけてメキシコ文化省国立人類学歴史機構国立文化遺産保存修復調整機関を会場に実施した国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」における講義及び実習の実施内容を掲載した。

日本語、2017年3月刊行、107ページ。

(③コ05の一環として実施)

『Workshops on Conservation and Restoration of Urushi Objects 2016 / ワークショップ「漆工品の保存と修復」2016』

2016年11月30日から12月10日にかけてケルン市博物館東洋美術館(ドイツ)を会場に開催したワークショップ「漆工品の保存と修復」の講義及び実習の実施内容を掲載した。

日本語・英語、2017年3月刊行、65ページ。

(③コ05の一環として実施)

